

リーダーになる!

実践する上司学。

嶋津良智による、よきリーダー、上司になるための必読コラム。

第25回 上司は誰よりも勉強しろ

仕事の一部として勉強時間を入れる。忙しさを理由に勉強や教育を後回しにしない。上司は誰よりも勉強し、一歩先を見通す目を養わなければいけません。

「オレは忙しくて、とても勉強なんて手が回らないよ」と言っていて、まったく勉強をしない上司をよく見掛けます。きつと、忙しいのは事実でしょう。日々仕事をしている、勉強、教育はついつい後回しになってしまふものです。自分の勉強、部下の教育、社員の教育など、すべての教育が後回しにされてしまうのです。

教育というのは、重要度は高いのですが、緊張度が低いので、「今すぐ手をつけ

なくても大丈夫だろう」と言いながら、ずつと放つておかれてしまう悲しい存在です。

忙しさを理由にしない 常に新しい情報を入力

しかし、上司としての仕事をまっとうするには、勉強することも非常に大切です。たくさんの部下との関係を良好に保つためには、

コミュニケーションの知識を蓄える必要があるでしょう。

うし、時代の流れに取り残されないように、新しいビジネスモデルや成功している会社の話を知ることが大切でしょう。

日常業務に組み込む 工夫すれば時間はできる

それらの勉強時間を確保するには、日常業務とまつたかけ離れたものと考えるのはではなく、仕事の一部に組み入れてしまうことです。わたしは毎朝1時間、新聞や本を読む時間を取っています。そのほかにも、社外へ出掛けるときには、必ず30分前に現地に着くようにし、その時間を勉強に充てています。そうや



嶋津良智■リーダーズアカデミー学長。早稲田大学講師。大学卒業後、IT系ベンチャー企業に入社、トップセールスマンとなり、24歳で最年少営業部長に就任。1993年に独立、起業。94年に共同で情報通信機器販売の新会社を設立。2004年にIPOを果たす。05年に教育機関、「リーダーズアカデミー」を設立。



つて、時間を確実に確保できるように工夫しているので

できますし、雑誌からは旬な情報を得ることが出来ます。そのほか、いろいろな講演会を聞きに行ったり、セミナーを受けたたりすることも大いに価値があるでしょう。

部下の中には、自分以上に勉強熱心なタイプもいるかもしれませんが。そんな部下に対して「君は勉強熱心だねえ」「君は偉いわねえ」などと、のんきに感心しているようではいけません。上司ならば、どんな部下よりも勉強して、部下より一歩先を見通す目を養わなければなりません。

勉強の内容としては、まず本や雑誌を読むことをオススメします。本は自分の知りたい知識や情報を深く掘り下げて知ることが

載)